

IPW2019 アナハイムとスポーツツーリズム

寄稿 西川敏晴（トラベルジャーナリスト「地球の歩き方」創業者）



51 回目の開催となるアメリカの旅行産業最大のコンベンション IPW2019 は、カリフォルニア州アナハイムで、6月に開催された。日本からのデリゲーションは 120 人、田端浩観光庁長官や田川博己 JATA 会長など業界トップの参加も話題となった。開催地アナハイムは、目下メジャーリーグで大活躍の大谷翔平選手の本拠地でもあり、2 日目の夜には、アナハイム観光局とエンゼルス球団から日本のグループへの招待があり、期待の大谷翔平がホームランを打って観客席は盛り上がった。この夜、大谷の姿がプリントされた「2018 アリーグ新人王受賞」を祝うトレーナーが、全員にプレゼントされた。これらは過日の



OHTANI DAY に、すべての観客に無料で配られたものだ。定期的なスポンサー付の豪華プレゼント企画の実施は、スタジアムの観客動員の重要なポイントなのだという。

スタジアムは都市の誇り&観光資源 アメリカの4大プロスポーツ



IPW 開幕日の早朝、ロスアンゼルス観光局主催の日本人デリゲーションのための朝食会が開催された。ロスアンゼルス観光局のアーネスト・ウーデン総裁は、LA への観光客の活況と今後の明るい見通しを語った後、新たな観光ポイントとしてアカデミー賞ミュージアム（2019 年末完成）とロスアンゼルススタジアム・アット・ハリウッドパーク（2020 年 7 月完成）を強調した。

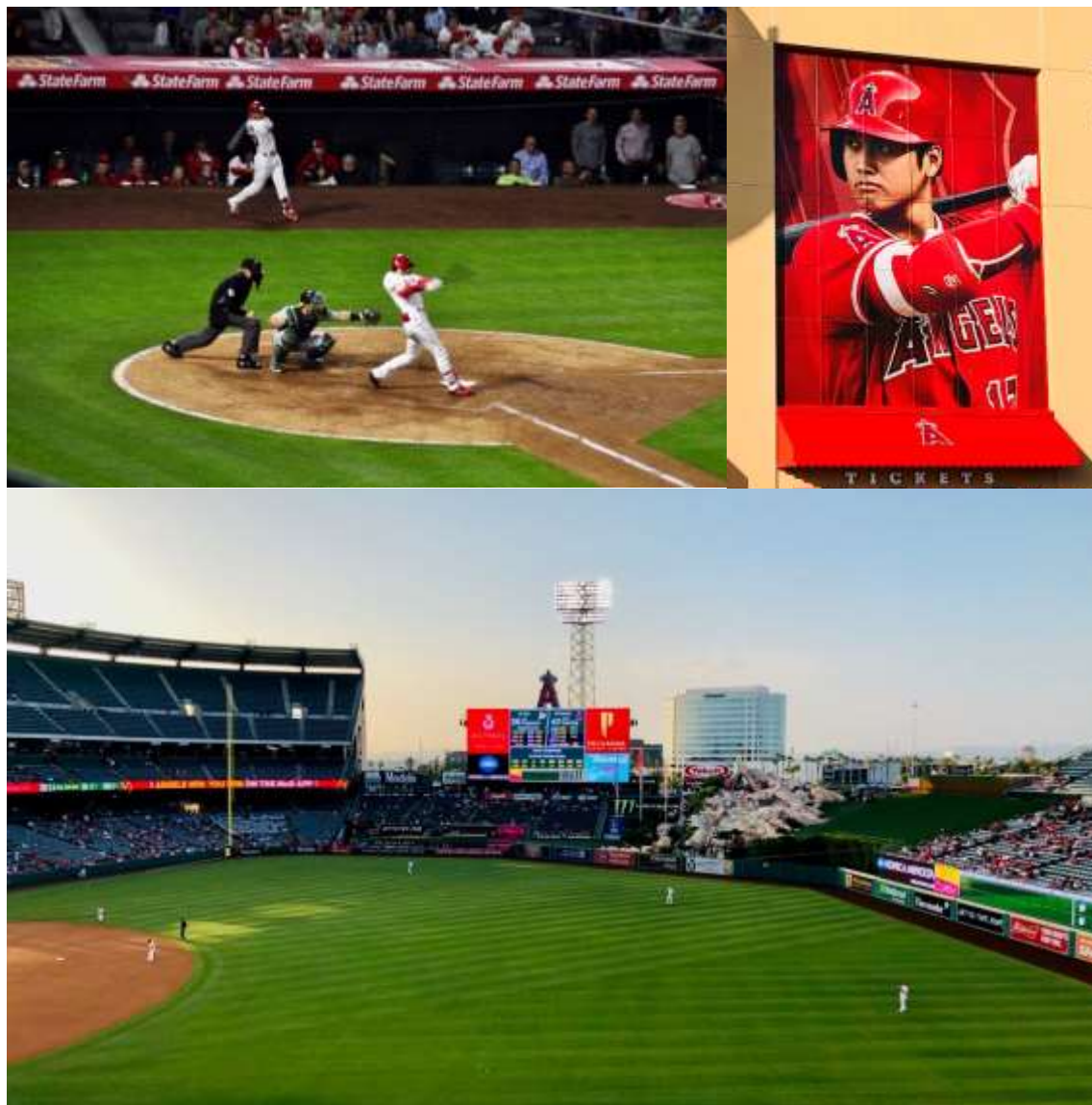


上記 3 点の写真©Los Angeles Tourism & Convention Board

建設中のスタジアムは、ラムズとチャージャーズの共同使用となり、2022 年のスーパー・ボウルの開催もすでに決定している。フットボールの新スタジアムは、建築学的にも斬新なものが多く、大物ミュージシャンのコンサートなどにも使用される予定で、注目度が高い。

アナハイムスタジアム・ツアーの臨場感

毎年、IPW では、オープニング前日に各種ツアーを企画し、参加者へ開催地の魅力をアピールしているが、その中の「アナハイムスタジアム&ホンダセンター（NHL アナハイムダックスの本拠地）の舞台裏を見るツアー」に参加した。



アナハイムスタジアムの前面には、主力打者マイク・トラウトと並んで大谷翔平の姿が壁面に大きく描かれ、その人気ぶりを感じさせる。球場にはさまざまなタイプの観客を迎えるシートが用意され、とくにVIP待遇の部屋、接待やグループ観戦に使える特別室の充実に力を入れている。今年は、チケット窓口にも、日本語を話すスタッフも配置しているという。ビルの中を行き来するごとくエレベーターを乗降し、記者席やビジターチームのロッカールーム、敵味方が上下に位置する二階建てブルペン、木立と芝生の緑のバックスクリーン、ディズニーがオーナーだった頃の名残の人工の岩山と滝の流れる外野、ダグアウト…そして最後に、メジャーのグラウンドの芝生の上に降り立つ体験は、特別感と臨場感があった。

スタジアムツアーの一番人気 ミネソタ・USバンクスタジアム

スタジアムツアーで現在、最も成功している（ミネソタ観光局スタッフ）と言われている、ミネアポリスのミネソタバイキングス（NFL）の本拠地 US バンクスタジアム（2016年完成のフットボールスタジアム）は、今年スーパー・ボウルが開催されたこともあり、朝10時から1時間ごとにツアーが出発（19ドル）するほどの大人気だ。私が参加した日は、地元の中学生のグループ見学とも重なり、賑やかだった。



大きな船のような外観、積雪に耐える明るい ETFE パネルの屋根、ガラスを多用した設計や設備、ロッカールーム、殿堂入りの選手や歴史の展示、観客席、プレミウムルーム、コンサートや展示会や他のスポーツイベントなど多目的に使用するための様々な工夫、音響や大画面の装置、フィールド…US バンクスタジアムのツアーの全1マイル、90分間のすべてが圧巻であった。ボランティアガイドのジェフさんに「US バンクスタジアムのライバルになるスタジアムはどこ？」と尋ねると、「来年できるロスアンゼルススタジアム！」と間髪を入れずに答えが返って来た。

プロスポーツにおけるスタジアムツアーの存在感

IPW の出展ブースのリストを眺めていると、サンフランシスコ・ジャイアンツ・オラクルパーク、サンディエゴ・パドレス・ペトコパーク・ツアーズ、ボストンレッドソックス・フェンウェイパーク・ツアーズ（アメリカ最古のボールパーク）、ナショナルズ・ベースボールクラブ（ワシントンDC）のMLB、ロスアンゼルス・クリッパーズ（LA）オーランド・

マジック（フロリダ）の NBA、アナハイムダックス（NHL）……など、スポーツツーリズム関連のブースが目につく。大都市の観光局のブースでも、プロスポーツを重要な観光資源として位置づけ、スケジュールや施設の情報発信を行っている。

スタジアムツアーは、シーズン中だけでなく、一年を通じて実施している球場も少なくない。サンフランシスコ・ジャイアンツのオラクルスタジアムのブースを訪ねると「IPW での第一のミッションは、スタジアムツアーを旅行業者と接点を持ちながら宣伝する」ことだという。「サンフランシスコの湾にある鷗が舞うスタジアムは、明るくてアトラティブ。歴史や雰囲気や施設もすばらしツアーだ。試合が開催される当日さえ、スタジアムツアーを実施している」と自信のアピール。「ボールパークをどう魅力的に運営するかは、チケットの販売促進とは別のスタジアムオペレーションという観点からサービスやイベントを企画している」と、ツアーマネージャーのエリカ・シネスロスさんは語る。最近では横浜ベイスターズが、ドジャース球団へ、また、他の日本の球団も関係の深い MLB の球団へ続々、最新のスタジアムオペレーションを学びに行っているようだ。

NBA のクリッパーズは、旅行会社から送客してもらうことが出展の目的。そのために VIP グループパッケージとして、ステープルセンターのコート上での記念撮影やフリースロー・パフォーマンス、入退場する選手通路に並べる FAN TUNNEL、間近での試合前練習の見学などの企画を用意している。



アメリカ人のボールパーク愛を象徴する伝説の球場の切手シート

観戦専用アプリ「MLB Ballpark」全球場でアクセス可能に

アナハイムのスタジアムツアーでファンサービス話題として、スタッフが強くアピールしていたのが、観戦専用アプリ「MLB Ballpark」。一部球団が始めたアイデアが、今はリーグ規定により全球場で実施、アクセス可能となった。アプリ自体は、球場敷地の圏内に入らないと稼働しないが、事前にダウンロードしておく、駐車場の位置の確認から、本日のイベント、席のアップグレード、選手やチームのデータ、実況解説、最新ニュース…を堪能できるので、利用率も高い。ライブの興奮を高める話題のツールである。ちなみに、事前予約チケットの QR コード化も一気に進んでいる。



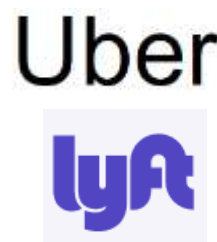
<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.bamnetworks.mobile.android.ballpark&hl=ja>

大谷の活躍を観に行く旅 2019 夏 個人旅行とウーバー

私がアナハイムスタジアムで出会った大谷観戦の二組の日本人カップルは、一組はレンタカーで動く旅、もう一組はウーバー（Uber=一般ドライバーによる配車サービス。2010年サンフランシスコで営業開始、ライバル会社はリフト）を駆使して移動する個人旅行の人たちであった。アメリカの大都市では、ウーバーやリフトのアプリは、直ぐに呼べる便利さ、客の評価の反映やキャッシュレスや事前に分る料金などの利便性により、市民生活に浸透している。空港にも鉄道駅にもドジャースタジアムにもウーバー専用エリアがあり、観光の移動手段としての利用価値は高い。しかし、北米関連の「地球の歩き方」での紹介の仕方には、タイトルによってバラつきがある。日本でのウーバー導入は議論の最中だが、「現地で普通に使用されている交通手段は、紹介すべき」（田端観光庁長官）とのご意見もいただき、ガイドブックとしての統一した方針と実用的な詳しい表現と露出をぜひ期待したい。

Uber サイト：<https://www.uber.com/ja-JP/cities/>

Lyft サイト：<https://www.lyft.com/>



スポーツツーリズム先進国を感じた IPW2019 アナハイム

2019年夏は、大谷選手の活躍を現地で観るために海外旅行に出る「大谷翔平観戦市場」が形成され、旅行会社各社の企画も目白押しである。「大谷観戦ツアーのパッケージツアーの参加者には、中高年の女性が多い」（大手旅行社）ことは、大谷翔平ファンの世代の幅広さを証明。大谷のゲーム前練習の柵越え連発は「一見の価値」があるので、早く（2時間前）球場入りする企画はより楽しみが倍増する。アウェイ（遠征先）のゲームで大谷を観る、という変化球の企画もまた集客結果を聞きたいと思う。

アメリカでのスポーツ観戦は、スタジアムの魅力と共にあることを実感するとともに、スタジアムツアーが旅行産業のコンベンションのブースに参加していることこそ、アメリカがスポーツツーリズム先進国だと感じた IPW2019 アナハイムであった。

（写真協力：西山 徹）